

キトルダ®【3週毎/肺】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		キトルダ®注	治療のお薬です。約30分かけて点滴します

投与スケジュール

薬品名	日数																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
キトルダ® 点滴静注100mg	↓																												

3週ごとに点滴します。

キトルダ療法【3週毎/肺】

よく起こる副作用

★下痢

発生時期 薬剤投与日から数日～数週間後に起こります。

症状 水のような便が夜間をとわず頻回に出ます。ときどきおなかがしぶるようになり痛くなります。

対処法

- 感染症を防ぐ為、排便後は肛門の周りを清潔に保ちましょう。
- 周期的な腹痛、1日5回以上(もしくは通常よりも3回以上多い排便)の排便、夜中の下痢便が起こった場合はお知らせ下さい。
- 症状によっては下痢止めが使われることがあります。
- 下痢がひどくなり、液状・粘膜状の便が続く時、あるいは血便や強い腹痛があるときはお知らせください。
- 食事は温かく消化吸収のよいものを取りましょう。
- 下痢によって水分が失われるので、スポーツドリンクなどで水分をたくさんとりましょう。
- 辛い食べ物、冷たい食べ物、炭酸飲料やコーヒーも避けましょう。

★皮疹/かゆみ

対処法 発疹の程度によって副腎皮質ホルモン剤(ステロイド剤)などを用いて治療します。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★高血糖

発生時期 ○治療開始日より数日～

症状 ○血糖値が高くなることがあります。症状としてはのどの渇き、多量に水分を摂ることからくる多尿、倦怠感、体重減少などがあります。

対処法

- 血液検査で血糖値を測って観察します。状況に応じて血糖値を下げるお薬や注射(インスリン)を使用することもあります
- 「のどの乾き」「水分を多量に摂る」「多尿」「倦怠感」「体重減少」などの症状が現れた場合は速やかに受診をしてください

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 ○発熱、から咳、呼吸困難(息苦しい)、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち(風邪のような症状：発熱をとまなう空咳)から対応する必要があります。特にこれまでに間質性肺炎にかかったことのある方は、注意が必要になります。

★過敏反応(インフュージョンリアクション)

発生時期 薬剤投与中～投与開始後24時間以内

症状 発熱、疼痛、ほてり、頭痛、頻脈・心悸亢進(心拍数が著明に亢進すること)、血管浮腫(舌・喉のはれとして認められることがあります)、咳・呼吸困難、そう痒(かゆみ)、吐き気、虚脱感、悪寒(震え)、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○点滴中、点滴後(特に24時間以内)においても気になる症状が現れた場合には、すぐに医師や看護師・薬剤師に知らせてください。

★その他

★その他

症 状 甲状腺機能低下症、肝障害、腎障害、血栓症、膵アミラーゼ上昇など

その他の副作用

★末梢神経障害

症 状 ○指先や足のうらがぴりぴりする、感覚がにぶくなる、しびれや痛み等の症状が起こります。

対 処 法 ○症状がひどくならないように早めに対処します。
○症状がひどいときには、漢方薬やビタミン剤が使われるることがあります。また薬を減量したり、治療をお休みする事もあります。
○転倒に注意しましょう。熱いものや刃物を扱うときにはけがをしないように十分注意しましょう。

★その他

症 状 悪心、食欲不振、倦怠感、口内炎、目のかすみ、手足の筋力低下 など

対 処 法 ○症状に応じて対症療法をおこないます

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

